



福岡医発第760号(地)
平成21年 7月15日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 横 倉 義 武
(公 印 省 略)

新型インフルエンザ（A／H1N1）に対する今後の福岡県の対応について

厚生労働省が、6月19日に「医療の確保等に関する運用指針」を改定し、現在流行しているA／H1N1新型インフルエンザについては、患者の多くが軽症のまま回復していること、また、秋口からの感染者増大が予想されること等から、患者数の急激で大規模な増加に対応するとともに、重症患者に対する適切な医療の提供を重視するため、「原則として全ての医療機関で対応する」という方針を示したことから、福岡県における今後の対応について福岡県保健医療介護部と協議を行い、別添のとおりいたしましたのでご連絡いたします。

外来体制につきましては、『現状のA／H1N1新型インフルエンザに対しては、季節性インフルエンザと同様の院内感染防止対策により診療を行う』ことを基本として、7月23日（木）を目途に、原則として全ての医療機関において外来診療を行う体制へ移行いたします。ただし、産科医療機関や透析医療機関等の基礎疾患を有する者の専用外来を持つ医療機関においては、発熱患者受診の際は、事前に電話連絡を受ける等、特段の対応を図ることとされております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただき、貴会管下保健所とよくご協議の上、会員各位への周知・協力量方よろしくお願い申し上げます。

なお、今回の対応は、A／H1N1新型インフルエンザウイルスの病原性の増大等、状況の変化により適宜見直すことといたします。

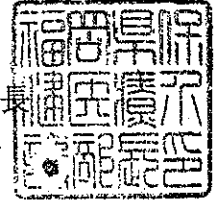
小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 毛利康茂
新型インフルエンザ対策委員会
会長 丸山 泉

21保衛第 951 号
平成21年 7月15日

(社) 福岡県医師会長 殿

福岡県保健医療介護部長



新型インフルエンザに対する外来体制について

本県の保健医療介護行政の推進につきましては、日頃から特段の御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本県での標記体制について、原則として全ての医療機関において行うことと致しました。

つきましては、7月23日(木)を目途に、一般医療機関においても、外来診療を行っていただきますよう、貴会員に対する周知をお願いします。

なお、診療の提供にあたりましては、季節性インフルエンザ対策と同様の院内感染対策を徹底すること、また、産科医療機関や透析医療機関等の基礎疾患を有する者の専門外来を持つ医療機関におきましては、通院患者が発熱により受診する際は、事前に電話連絡を受ける体制とする等、特段の対応を図られるよう併せて周知、指導いただきますようお願いいたします。

平成 21 年 7 月 14 日

保健医療介護部保健衛生課

新型インフルエンザ(A / H1N1)に対する今後の県の対応について

今回、流行している新型インフルエンザ(A / H1N1)は、多くの患者が軽症のまま回復している。

現在、この新型インフルエンザ感染者は、国内外で増加しており、国内では、海外渡航歴がある事例や学校における集団感染事例以外にも、感染源が不明である事例が散発している。

このため、厚生労働省は、患者数の急激で大規模な増加をできるだけ抑制・緩和するとともに、重症患者に対する適切な医療の提供を重視した対策に切り替えることとし、医療の確保等に関する運用指針を改定した。

これらの状況を踏まえ、現在の新型インフルエンザについては、季節性インフルエンザと同程度の病原性と捉え、今後の福岡県における新型インフルエンザ(A / H1N1)に対する対応について、次のとおりとする。

なお、本対応については、新型インフルエンザウイルスの病原性の増大等の状況変化により適宜見直すこととする。

1 外来体制について

- (1) 原則として全ての医療機関において行う。
- (2) 発熱患者が、産科医療機関や透析医療機関等、基礎疾患を有する者の専門外来を受診する際には、事前に電話連絡するよう呼びかける。
- (3) 医療機関は、発熱患者へのマスク着用、診療にあたる医療従事者のサージカルマスク着用等、季節性インフルエンザ対策と同様の院内感染対策を徹底する。
- (4) 現在、開設している専用外来については、医療機関における外来診療の開始に伴い廃止する。
- (5) 電話相談窓口については、医療機関へ外来診療が移行された時点で、夜間、休日等の時間外相談は中止し、通常の相談体制に戻すこととする。

2 入院体制について

- (1) 軽症患者は、原則として自宅療養とする。
- (2) 重症患者や基礎疾患を有する者等(妊婦、乳幼児、高齢者、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、代謝性疾患、腎機能障害、免疫機能不全等)の治療で入院が必要と認められた場合は、「入院協力医療機関」の協力を得て行うこととする。

3 発生状況の監視

- (1) 学校、施設等での新型インフルエンザの集団発生を早期に把握するため、医師、学校、施設等から、同一の集団内における複数のインフルエンザ患者の発生についての連絡を受ける。
- (2) 新型インフルエンザの重症者の発生状況の把握をするため、インフルエンザと診断された入院患者のPCR検査を行う。
- (3) インフルエンザ全体の発生状況を把握するため、インフルエンザ患者定点医療機関による発生報告を継続するとともに、ウイルスの詳細な情報を収集するため、インフルエンザ病原体定点医療機関においてインフルエンザと診断された患者のPCR検査を行う。

インフルエンザ患者定点医療機関(198施設)

インフルエンザの発生状況を地域的に把握するため、インフルエンザを診断した場合に患者数の報告を行う医療機関

インフルエンザ病原体定点医療機関(21施設)

インフルエンザウイルスの詳細な情報(型別、薬剤耐性、ウイルス変異)を収集するために検体を提供する医療機関

4 社会対応

(1) 県民への呼びかけ

感染防止のため、手洗いやうがいの励行、咳エチケットの徹底などを呼びかける。

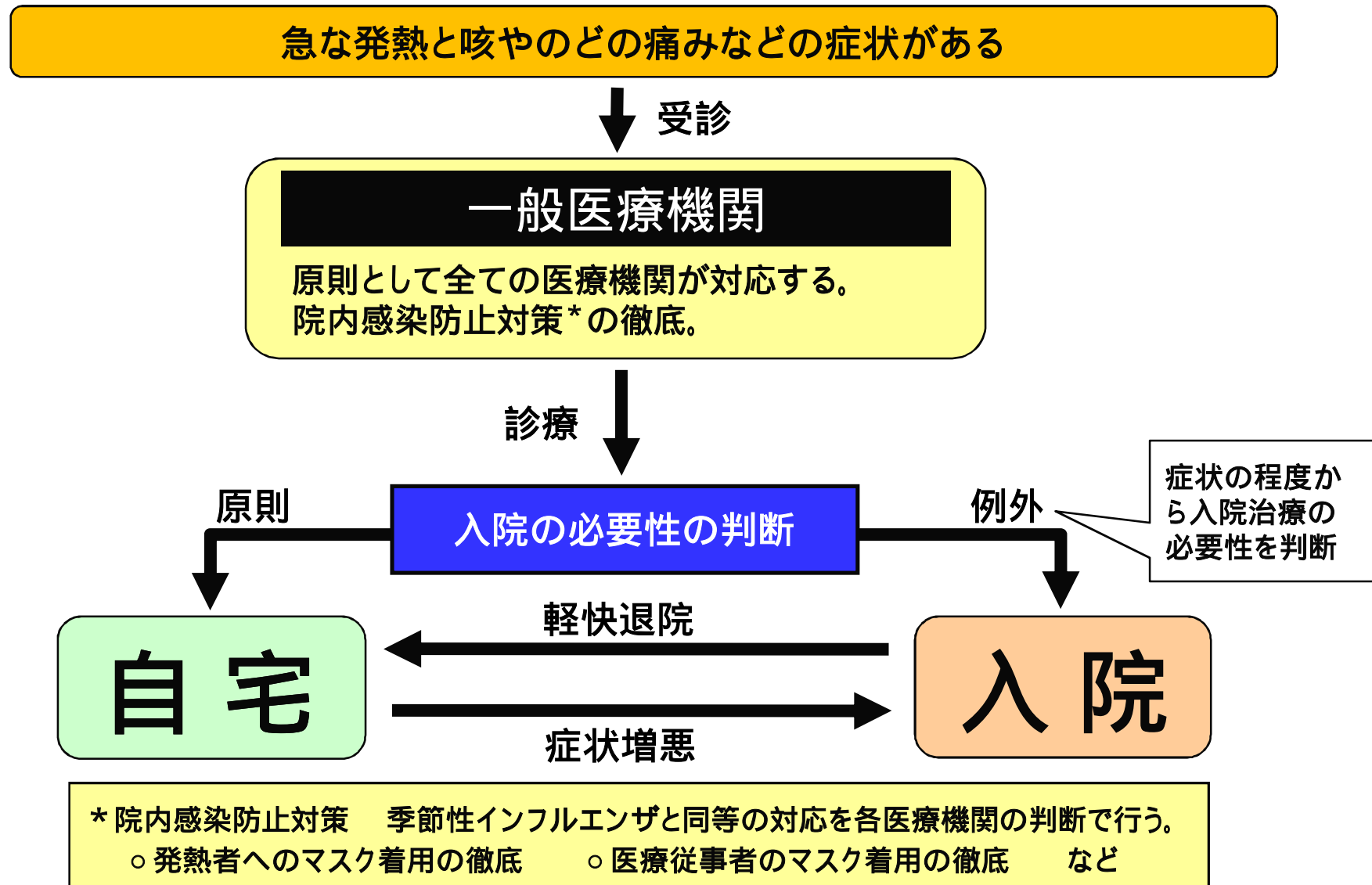
(2) 学校・保育施設等の臨時休業の要請等

- ・ 学校、放課後児童クラブ、保育所等において感染者が児童生徒である場合、必要に応じて当該児童生徒の所属するクラスの臨時休業を要請する。なお、学校等において、感染の広がりが想定される場合には、必要に応じて当該学校等の一部又は全部の臨時休業を要請する。
- ・ 通所に係る障害者施設及び介護事業所において感染者が発生した場合は、利用形態等を勘案し必要に応じて、一部又は全部の臨時休業を要請する。

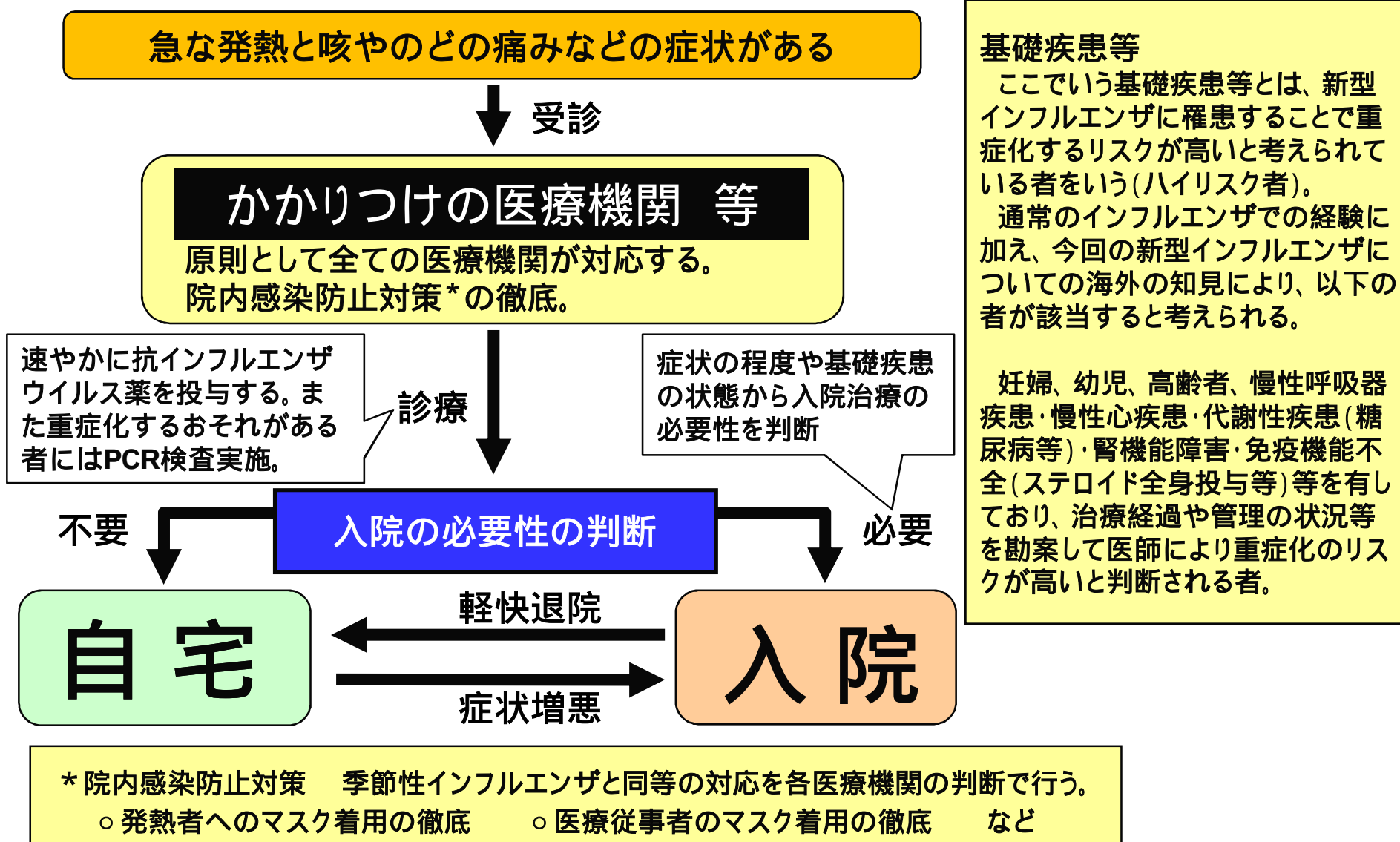
5 情報提供

医療機関や市町村等に対して、適宜必要な情報を提供する。

発熱患者の受診の流れ 【基礎疾患等を有しない場合】



発熱患者の受診の流れ【基礎疾患等を有する場合（妊婦以外）】



発熱患者の受診の流れ【妊婦の場合】

急な発熱と咳やのどの痛みなどの症状がある

受診

かかりつけの産科医療機関もしくはその他の医療機関

原則として全ての医療機関が対応する。
院内感染防止対策*の徹底。

診療

症状の程度や妊娠の経過から入院治療の必要性を判断

不要

入院の必要性の判断

必要

自宅

軽快退院

入院

症状増悪

妊婦に症状を認めた場合、妊婦から妊婦への感染を極力避けるため、産科医療機関においては、あらかじめ電話してから受診を求める等の対応を図る。

* 院内感染防止対策 季節性インフルエンザと同等の対応を各医療機関の判断で行う。
○ 発熱者へのマスク着用の徹底 ○ 医療従事者のマスク着用の徹底 など